

土地分類調査の現状

令和5年10月
政策統括官

- I 土地分類調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P2
- II 第7次国土調査事業十箇年計画の概要と進捗状況・・・・・・・・ P10

I 土地分類調査の概要

土地分類調査の概要

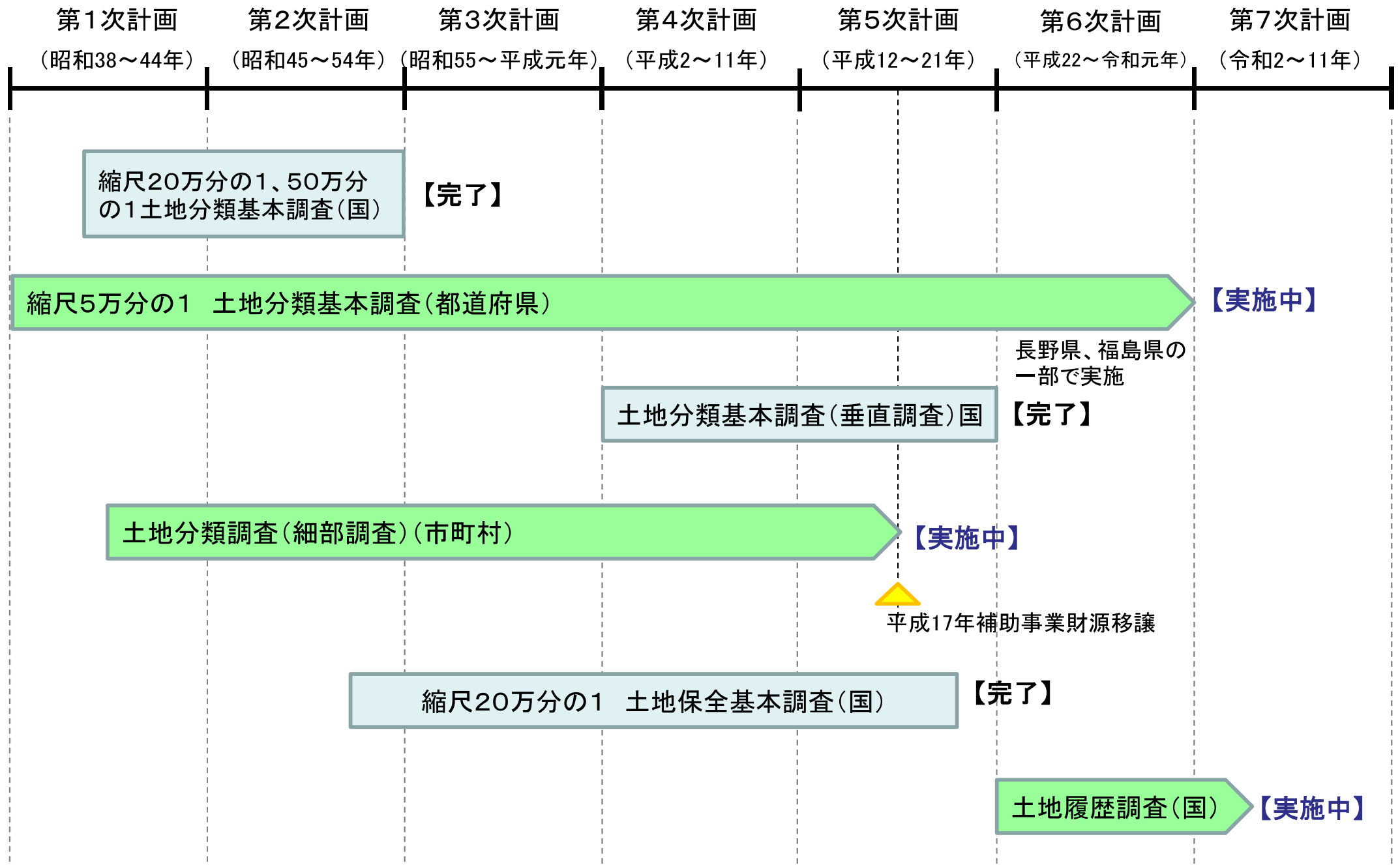
土地分類調査とは

- 国土の開発及び保全並びにその利用の高度化に資するため、国土の実態を科学的かつ総合的に調査し、その結果を地図や解説書にとりまとめる事業

これまでに実施した主な調査

調査名	実施主体	概要	実施状況
土地分類基本調査 (縮尺20万分の1、 50万分の1)	国	地形分類図、表層地質図、土壌図などを作成	全国で実施
土地分類基本調査 (縮尺5万分の1)	都道府県	地形分類図、表層地質図、土壌図を作成	全国(北海道のほぼ全域及び本州の山間部の一部を除く)で実施 (約30万km ²)
土地分類基本調査 (垂直調査)	国	土地の垂直方向の情報として、地下の地質断面図等を作成	三大都市圏、札幌、仙台、福岡等で実施(約12,700km ²)
土地分類調査 (細部調査)	市町村	詳細な地形分類図、表層地質図、土壌図、土地利用現況図、土地生産力等級区分図等を作成	151市町村(8,888km ²)で実施
土地保全基本調査 (縮尺20万分の1)	国	自然条件、土地利用・植生状況、災害履歴等の地図を作成	全国で実施
土地分類基本調査 (土地履歴調査)	国	人工地形・自然地形分類図、土地利用分類図、災害履歴図を作成	三大都市圏、主要な地方都市の一部で実施(約22,000km ²)

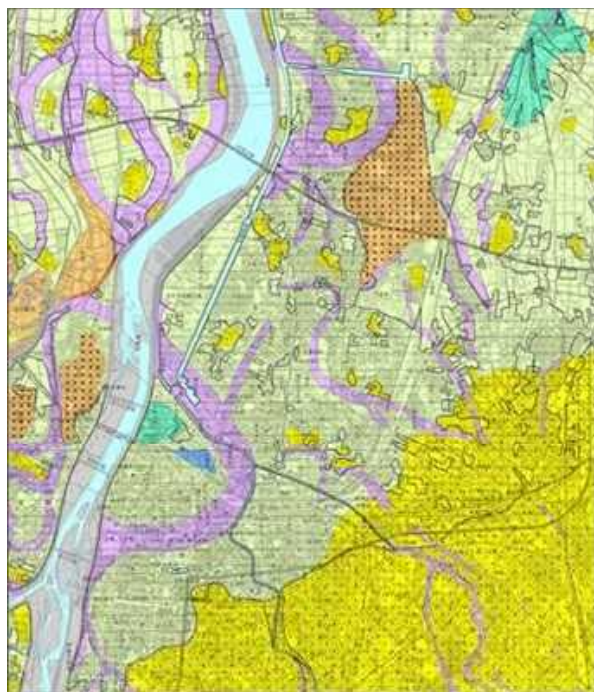
土地分類調査の概要 主な調査の実施状況



土地分類基本調査(土地履歴調査)の概要

- 土地の安全性に配慮した適切な土地利用を図るため、土地本来の自然地形や改変履歴等の情報を整備・提供
- 第6次国土調査事業十箇年計画から実施

人工地形・自然地形分類図



地形の人工改変

改変前の自然本来の地形と改変後の地形を分類

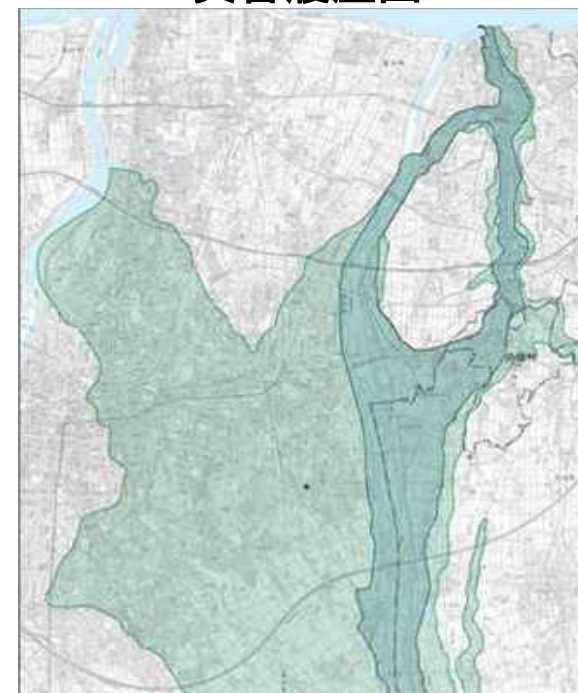
土地利用分類図



土地利用の変遷

明治期(約100年前)と昭和期(50年前)の土地利用を分類

災害履歴図



過去の災害の空間分布

過去に発生した浸水、土砂崩れ、液状化などの被災範囲、地点の分布



情報利用者が土地の安全性、災害リスクを判断

土地履歴調査の効果

調査成果の提供

国土交通省

国土調査(土地分類基本調査・水基本調査等)ホームページ

URL: <https://nlftp.mlit.go.jp/kokjo/inspect/inspect.html>

調査成果は、HPから誰でも閲覧・ダウンロードして利用することが可能



調査図・説明書



HP上で閲覧する利用者向けの画像、pdf等の情報

Web地図(地理院地図)



災害情報、空中写真などの他の地理空間情報と重ね合わせた表示・閲覧が可能

調査図のGISデータ



GISを使った分析等での利用を想定した機械判読可能なデータ

- ・調査成果の閲覧
- ・文献・資料等における引用

- ・災害時の状況把握
- ・地理教育、防災教育

- ・他の地理空間情報と組み合わせたGISを使った分析(ハザードマップ作成等)
- ・災害リスク評価の開発などの研究分野

利活用促進の取組

- ・学校教育や地域の災害教育での活用促進に資する情報提供の強化
- ・適正な土地利用や土地取引に資する国民目線でわかりやすい災害リスク情報の発信
- ・他の地理空間情報との組み合わせ等による研究分野等での高度な活用を促進

土地履歴調査成果の主な活用イメージ

地形分類図



人工改変地、低地、自然堤防などの地形分類から地盤の硬軟(地震動の地盤増幅率)を推計

国、地方公共団体等が作成する「ハザードマップ」等で活用

(活用例)
地震ハザードマップ
(三郷市)



土地利用分類図



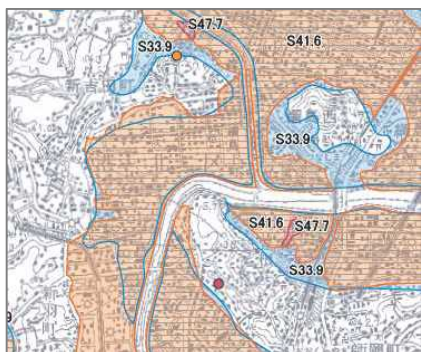
明治期、昭和期の土地利用分類から土地利用やまちの変遷に関する情報

地方公共団体において、都市計画、土地利用計画等の策定の際の土地に関する基礎情報として活用

(活用例)
都市計画マスタープラン
(横浜市)



災害履歴図



過去発生した洪水、高潮、津波などの浸水範囲、地震時の液状化発生地点等の情報

- 不動産事業者が土地取引の際の災害リスク情報として活用(重要事項説明等)
- 民間事業者の運営する地盤情報の提供サイト等における災害リスク情報として活用
- ハザードマップ等の基礎情報として活用

(活用例)
地域の防災対策(四日市市家庭防災手帳)

情報利用者が土地の安全性・災害リスク等を把握

調査成果の活用に向けた取組

地方公共団体への調査成果説明会

土地履歴調査を実施した地区において、成果説明会を開催。

- ・調査成果（地形分類、土地利用変遷、災害履歴）の内容についてわかりやすく説明。
- ・土地履歴調査成果の利用方法、利活用例について説明。
- ・関係自治体との意見交換を実施。



調査成果説明会

調査成果の活用方法をHPから公開

- ・過去に調査を実施した地区の土地履歴調査成果を活用した事例集を作成。
- ・具体的な成果の利用方法を記載しており、調査成果の利活用促進に寄与。

新潟地区(新潟・長岡地域) 土地履歴調査成果の利活用事例

1 新潟平野の成り立ち
新潟地区を代表する特徴的な地形を見ましょう。

- 1 新潟地域 砂丘列と低湿地
- 2 長岡地域 河川流路の変化 [2ページ](#)

2 人の手による土地の改変
新潟地区は、信濃川などの河川によってできた地形の改変を行ってきました。

- 1 新潟地域 信濃川の埋め立て
- 2 長岡地域 刈谷田川の河道変更 [4ページ](#)

3 信濃川を治めるさまざまな取組
新潟地区は、信濃川の氾濫とたたかってきました。

- 1 甚大な被害を出した「横田切れ」
- 2 新潟平野を守る人工水路「大滝津分水路」
- 3 三湖を農耕地として発展させた「新川」
- 4 2つの役割を担う「開墾分水路」 [5ページ](#)

4 新潟地区の発展のようす
水田や畑、森林だった土地が、住宅地へ変わっていく様子を、明治・昭和・平成の3期で見ましょう。

- 1 新潟地域の土地利用 [6ページ](#)
- 2 長岡地域の土地利用 [6ページ](#)

5-1 新潟地域を襲った災害

水害

- 1 8.28羽越水害 1967 (昭和42) 年
- 2 6.26水害 1978 (昭和53) 年
- 3 8.4水害 1998 (平成10) 年

地震災害

- 4 新潟地震 1964 (昭和39) 年 [8ページ](#)

5-2 長岡地域を襲った災害

水害・土砂災害

- 1 7.13新潟豪雨災害 2004 (平成16) 年

地震災害

- 2 長岡地震 1961 (昭和36) 年
- 3 新潟県中越地震 2004 (平成16) 年 [12ページ](#)

6 土地の特色を活かした新潟へ
全国的な米どころとなった新潟県。その背景にあった先人たちの努力を紹介します。

- 1 水とのたたかい(亀田郷)
- 2 烏屋野湯の排水
- 3 「コシヒカリ」からさらに「新之助」誕生へ
- 4 豊かな自然が残る「潟」 [14ページ](#)

調査成果の活用に向けた取組

土地履歴調査 利用の手引きをHPから公開

- ・土地履歴調査成果の地理院地図での利用方法について、利用手引きを作成。
- ・成果の表示方法や陰影起伏図などの他のデータとの重ね合わせにより分かることなど、土地履歴調査成果の利用方法をわかりやすく説明。

土地履歴調査 利用の手引き

on 地理院地図

①地理院地図 (<https://maps.gsi.go.jp>) にアクセスします

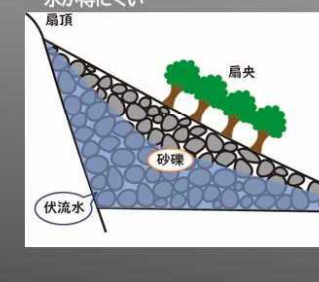


地理総合の教材づくり

- ・高等学校の地理必修化(「地理総合」の導入)を踏まえ、実際の教育現場で利用できるような教材案について検討。
- ・地理総合向けの教材案として、扇状地と氾濫原について作成。

扇状地の特徴

- ▶ 砂礫の堆積により、水が地下に伏流しやすい
⇒ 扇中央付近では河川も水無川になるなど、水が得にくい



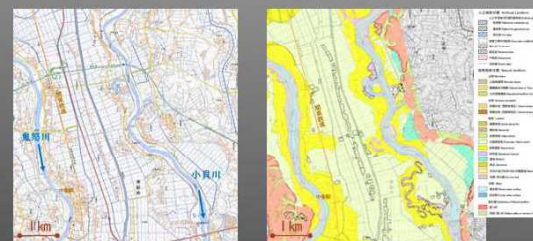
扇状地



河川でBQもできる!

氾濫原の概観

- ▶ 河川の下流部では氾濫原低地が発達する
- ▶ 蛇行河川や自然堤防、後背湿地、三日月湖などが特徴的



鬼怒川・小貝川

鬼怒川は、鬼怒川温泉や日光火山群を源流とし、栃木・茨城を南北に貫流し、利根川に合流する。鬼怒川は、2万年前ころには現在の小貝川の流路を流下していた。6000年前ころには現在の流路に移り、江戸時代に治水のため、常総市周辺で合流していた鬼怒川は、小貝川と分離された。

氾濫原

II 第7次国土調査事業十箇年計画の 概要と進捗状況

第7次計画における土地履歴調査の実施状況

第7次計画の考え方

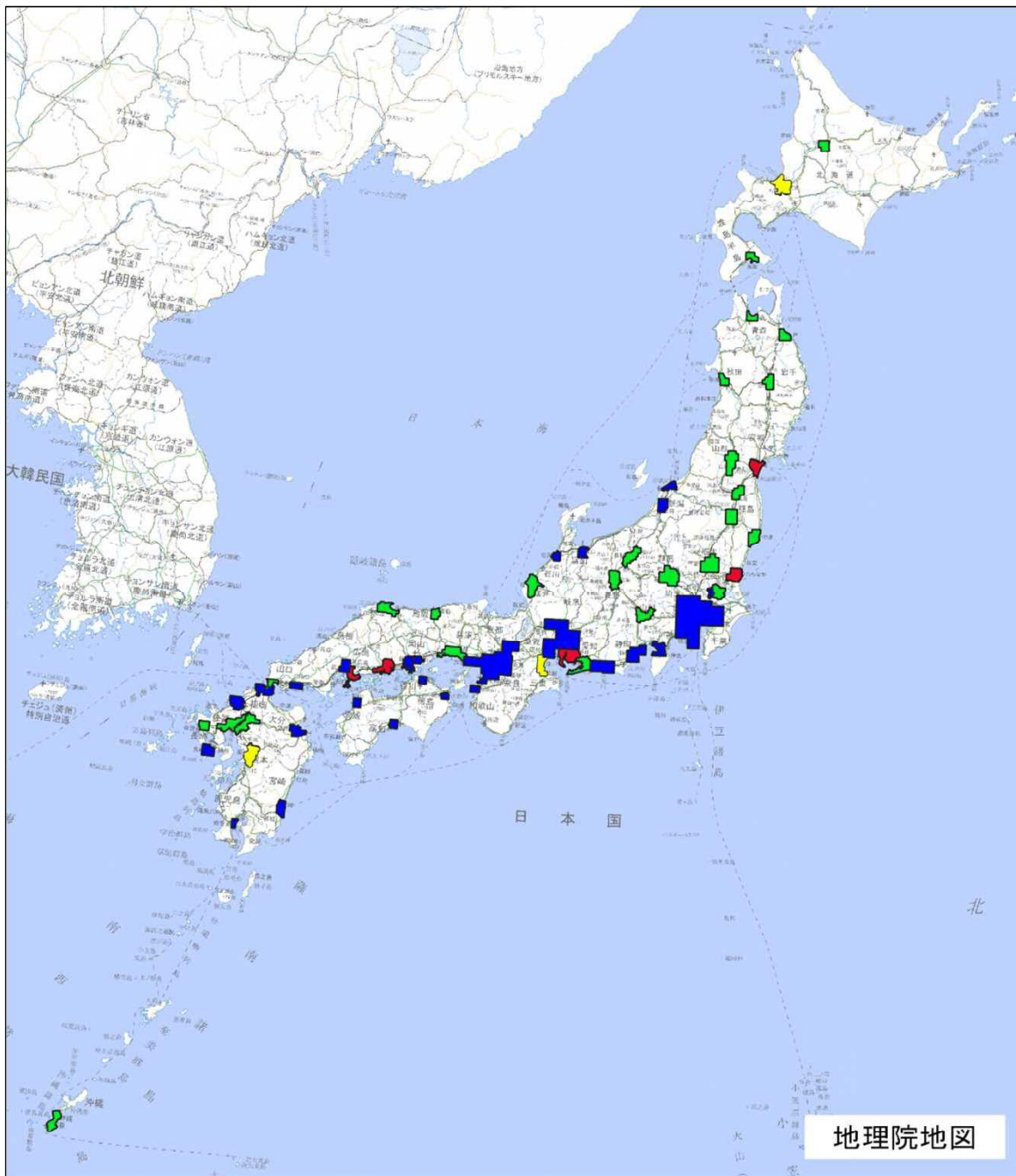
- 人口集中地区及びその周辺を対象に調査を実施。地域の現況や災害リスク等を勘案し、緊急に情報整備する必要性が高い地域について優先的に実施する。
- 土地分類調査の迅速かつ効率的な実施を図るため、解析技術等の進展を踏まえた効率的な調査手法の導入を図る。

実施状況

- 政令指定都市、県庁所在都市などの人口集中地区及びその周辺を対象に調査を実施

項目	十箇年計画 目標 (調査面積)	令和4年度末まで3箇年の実施状況	
		調査実施面積	実施量／ 計画事業量
土地分類基本調査 (土地履歴調査)	20,000km ²	4,268km ²	21%

土地分類基本調査(土地履歴調査)実施状況







第7次計画調査実施範囲

(目標事業量: 20,000km²)

実施年度	地区	面積 (km ²)
R2	呉、福山、豊橋、 岡崎	2,152
R3	仙台、岡崎	483
R4	岡崎、水戸、津、 仙台	1,633

※岡崎、仙台、津は複数年で整備

-  第7次計画の調査中範囲
-  第7次計画の調査済範囲
-  第7次計画の調査予定範囲
-  第6次計画の調査実施範囲
(18,000km²)

地理院地図